OEJAB派遣員12名来日

広島平和祈念公園にて献花・友愛勉強会・鳩山会館での講演会　多彩な日程の13日間

8月20日（火）から9月1日（日）までの13日間、姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟（OEJAB）からの派遣員12名が来日した。台風の影響が懸念される中、晴天に恵まれ広島市松井一實市長との面談も叶い、充実のスケジュールを過ごした。京都から帰りの新幹線が運休になり、名古屋に戻り、翌日敦賀経由北陸新幹線での帰京となるなど、アクシデントに見舞われたが、全員笑顔で「冒険旅行！」と笑いながら過ごしてくださったのが印象的だった。今回は友愛ユニオンから有志を募り、アテンドに参加してもらった。両国の若者が笑顔で楽しそうに旅をする姿は、正に友愛理念の具現化という思いを抱いた。

広島平和祈念公園の慰霊碑に全員で献花した。資料館を見学した直後で、表情は硬い
左からステラ・シュワイツアーさん（19）アンドレアス・グシールさん（20）アンナ・リードラさん（30）ソニア・チアロニさん（21）カイ・ピエトルシュカさん（26）トーマス・アングスタさん（OEJAB 学生寮責任者）ニコラス・ペトロンスキさん（OEJAB 国際交流担当）ベネデク・ヤノタさん（21）ドーラ・ルカッシュさん（21）フィリップ・ボスナクさん（24）ユリア・ウイッマさん（26）ヤナ・ディルンベルガさん（20）＊（　）内は年齢

スカイツリー、（写真左）雷門・仲店（写真中）、浅草寺（写真右）と東京の名所を一通り廻りました。到着して三日目にも関わらず元気いっぱいです。この日の昼食は天丼、美味しい美味しいの連発で、大好評でした。浅草寺ではお参りの作法も知りたいと、日本文化への興味絶大な一行です

友愛

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」
発行所
公益財団法人 友 愛
〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文天ビル2階
TEL：03-5684-3188
FAX：03-5684-3186
E-Mail:you-i@yuai-love.com
http://yuai-love.com
編集人：羽中田元美
隔月1回　10日発行
会　費（4月～3月）
個人／ 3,000円以上
法人／10,000円以上

京都・宇治の平等院鳳凰堂の前で記念撮影。10円玉をプレゼントして説明しました

後藤理事の発案で、新幹線に乗る前に東京駅見学です。歴史ある建物に同行のユニオンも感動

何と言っても伏見稲荷は人気の場所です。この後一行は2時間かけて、一番上のお社まで行きました

今回の来日は、姉妹団体として交わした事業協力の一環として実施されたもので、毎年友愛から6名の派遣員を送り、友愛は二年に一度OEJABから12名の派遣員を受け入れるというもの。OEJABへの派遣員は友愛ユニオンとしてまとまり、活動している。今回のアテンドも、積極的に「旅のしおり」を作成するなど、学生のみならず社会人になった者も参加協力を惜しまず、頼れる存在となっている。

4面には参加した友愛ユニオンメンバーの感想文を掲載しており、彼等の成長と心意気をお伝えしたい。

広島市では、松井市長との面談をはじめ、資料館見学も石田館長自ら一行を案内してくださるなど、厚遇を受けた。資料館を見学後に涙を流す学生もおり、平和についての貴重な勉強の機会となった。

東京では、鳩山会館を訪問、鳩山由紀夫理事長自ら館内を案内し、その後講演会、懇親昼食会と楽しいひとときを過ごした。また、友愛事務局4階の資料室に設えたお茶席での、茶の湯体験は、一番印象に残った出来事に挙げる学生が5名もあり、日本文化への興味の深さが伺えた。

次代を担う若者同志の交流は、新しい友愛活動として、芽吹いたようだ。

友愛ユニオンからの参加者

藤田脩椰さん（アテンドリーダー）／三浦愛佳さん／手塚七彩さん／田島桃子さん／小倉佑太さん／出倉正啓さん

友愛時評

▼不覚にも自民党総裁選が面白い。もちろん、次の首相が誰になるかが決まる実質的な選挙に興味がないわけではないが、総裁選自体は茶番劇となると思っていた。禅譲や密室での後継者決定に慣れ、あるいは「旧派閥の長たちの代理戦争」という見立てに毒されていたのかもしれない。▼推薦人20人を集めた有力候補が9人という乱立状況もさることながら、これほど個人的な思想や信条を明らかにしつつ、政治家が公開の場で議論を戦わせることがあっただろうか。それも、いわゆる「ガチ」の論戦である。「次の次」を狙った名乗りとか、いろいろな思惑も透けて見えるが、それでも首相に相応しい識見やリーダーシップ、そして「顔」であることを各候補が存分にアピールしている。それに比べると、自民党批判で一致せざるを得ない立憲民主党の党首選挙の論戦はつまらない。▼演説会や討論会が開催された場所も、福島、金沢、沖縄……と各候補の政策の違いを浮き彫りにするような選定だった。難しい課題を抱える地域でどのようなことを訴えるのか、「リップサービス」に頑張ってこの程度かと残念なところも多々あったが、実に面白かった。また、「親ガチャ」のような格差社会に関する発言のほとんどが「おまいう（お前が言うな！）」と感じさせるものだったのは野田元総理が批判した通りである。▼それでも「言語明瞭意味不明」が達人的な政治家の弁論術と言われた時代とは隔世の感がある。国際交渉の場でも張り合えるようなディベート力の涵養が教育の場で推進されて久しい。世代交代による政界の変化も着実に進んでいるのかもしれない。（ヒゲ）

エヤップと友愛の新時代の始まり

理事　西川　伸起

2024年夏、ついにエヤップからの若者訪日団12名が日本に到着した。思えば、今を遡ること60有余年、1962年にカレルギー伯本人から、類似の思想を持つ団体として紹介を受けたのが友愛とエヤップの今に続く長い関係が始まった端緒であった。

その後両団体は交流を深め、1965年にはウイーンにて議定書を締結、11月15日を友愛の日と定め、相互に視察団を頻繁に派遣し合い、交流を深めた。1968年にはオーストリア青少年代表団35名が半月にわたり来日するなど、交流を深めたことが記録に留められている。交流の頻度が細くなる中でも、両団体の良好な関係は続き、1990年には第1回ドイツ歌曲コンクールが中島信行理事のご尽力、エヤップの協力を得て開催され、（注1）2015年の第26回（注2）まで継続された。また、2015年には鳩山由紀夫理事長以下で友愛のメンバーが周年記念でエヤップを訪問、今後のさらなる交流を約すブリザービングブリッジ協定も締結された。

その後は友愛からは2016年の派遣を皮切りに、現在は公益事業として毎年6名を公募派遣し、その卒業生は友愛ユニオンとして活躍して居る。一方エヤップ側からの訪日は、エヤップ幹部や従業員にとどまっており、若者の国際交流としては、正直やや一方通行の感はあった。公益事業の一つとして、エヤップ側からも次世代を担う若者を広く募り日本で交流するという形が想定されていたのだが、実現にはコロナ禍もあり、なかなか至らないでいた。しかるに、今回、訪日希望者90余名から参加者を選出するにあたり、エヤップとしても今後の友愛からの派遣員との交流で活躍してもらえることを重要な要素に考えたとのこと。具体的にはエヤップの寮でのボランティア活動の実績などを考慮して選んだとのことであり、今後の相互の若者同士の交流深化が大いに期待される人選であった。

この度、ついに、当初の予定の形で訪日交流が実現し、そして成功裏に終わったことは、エヤップ側の労力もさることながら、理事長のご配慮、事務局各位のご尽力の賜物であり、またそれを支えた友愛ユニオンのメンバーの頑張りに依るところ大である。もっとも、事務局やユニオンメンバーの奮闘は触れ始めると本紙4ページ全てを使っても足りないので、断腸の思いで割愛させていただく。

また、参加者の内訳や、プログラムの内容、参加者の感想などは別稿で触れられると思うので、ここでは、彼らから受けた驚きを幾つか書き留めたい。曰く、東京では人が他人を思いやって行動しているとのこと、東京は大都会なのに静かであること、カレルギー伯よりもジブリの宮崎駿のほうが圧倒的に知名度が高いこと、茶道に異文化を感じること、民主主義への意識が強いこと、箸を使えるのは当たり前であること、寿司よりも目の前の鉄板で焼くお好み焼きのほうが印象的なことなどなど。かように顔を合わせて直に交流することが、日本側にも新たな気づきを生むのもまた豊かな時間であった。今回の若者訪日団の受け入れはエヤップと友愛の新たな関係の始まりを予感させるものであった。この交流が、閉塞感漂う日本や国際関係において、平和への希望の種として相互理解、相互尊重へと続く道であることを願って、エヤップと友愛の今後のさらなる関係強化に期待したい。

注1　友愛リート（ドイツ歌曲）コンクールの優勝者は、エヤップの主催するコンサートで演奏することが副賞として授与された

注2　27回以降は、（一財）ドイツ歌曲普及協会（当時）の主催で開催されている

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

鳩山会館にて記念撮影（写真①）　鳩山会館内の和式建築を鳩山理事長自ら案内。こうして座って談合したのですと説明（写真②）　講演の後の食事会。話が弾んでいた（写真③）　友愛勉強会（写真④・⑤）　炊き込みご飯、巻き寿司、トンカツ弁当と、質素ながら日本の日常を表現した食事に皆大喜び（写真⑥・⑦）　勉強会が終わってほっとした表情で記念撮影（写真⑧）　印象に残った体験として人気だったお茶席体験（写真⑨）　友愛についての講義をしてくださった田中正基評議員（写真⑩）　本事業の担当理事として大活躍西川伸起理事（写真⑪）　お忙しいご出席席くださり、友愛の講義を。戸澤英典評議員（写真⑫）

松井一實市長は、広島市が展開する平和への取り組みの一つ「平和首長会議」について、熱心に解説、志を話されました（写真上）
全員熱心に松井市長の言葉に耳を傾けて聞き入っていました（写真１）　最後に市長を囲んで記念撮影。この写真は市の広報にも掲載されました（写真２）　平和記念資料館では、石田館長自らご案内をしてくださいました（写真３）　平和を祈って、エヤップのロゴの入った花輪を献花しました（写真４）

多くの交通機関を利用して旅をしました。本当に大人数です。どんなときも楽しそうな様子（写真Ａ）
一日の始まりは、ホテルロビーでのミーティングから。春夏秋冬のグループに分けて、それぞれにアテンダーが付いての行動を続けました（写真Ｂ）
男子グループが揃って記念撮影。あれっ、七彩さんが…（写真Ｃ）

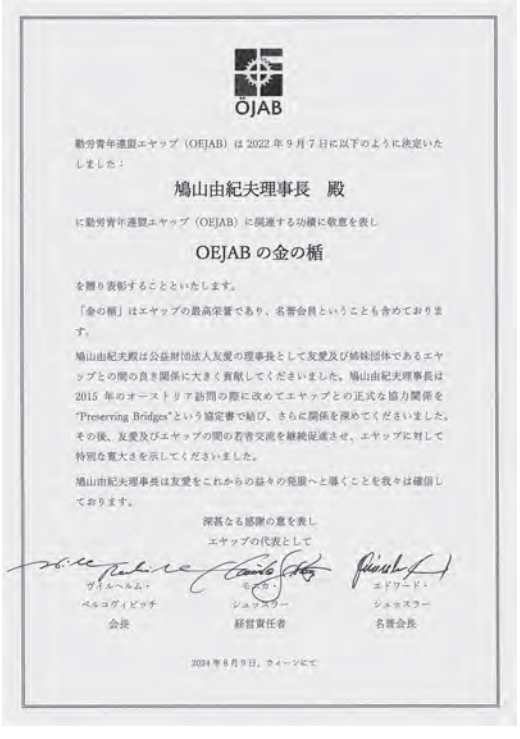
意外に人気だったのが、伏見稲荷門前茶屋で食べた「冷やしキツネ蕎麦とお稲荷さんのセット」みんな美味しい美味しいと口々に。確かに美味しかったです。茶店という雰囲気も面白かったのでしょう。これならベジタリアンの方も大丈夫です（写真Ｄ・Ｅ）
女子グループが揃って記念撮影。こちらに居る七彩さんは？（写真Ｆ）

鯉城（広島城）を訪問しました。兜を被って写真を撮ったり、アイスクリームを食べたりと楽しい一日でした（写真Ｇ）
厳島神社の写真スポットにて一枚。社殿に着く前に現れた鹿に興味津々でした（写真Ｈ）
広島の原爆に関する史跡の一つ、日赤病院跡。自らも被爆負傷しながら負傷者を助けた医療関係者を讃えています（写真Ｉ）

ＯＥＪＡＢ最高栄誉賞　受賞

鳩山由紀夫理事長・井上和子理事に金の盾徽章

永年に亘る友好関係を讃えて



ÖJAB

勤労青年連盟エヤップ（OEJAB）は 2022 年 9 月 7 日に以下のように決定いたしました：

鳩山由紀夫理事長　殿

に勤労青年連盟エヤップ（OEJAB）に関連する功績に敬意を表し

OEJAB の金の楯

を贈り表彰することといたします。

「金の楯」はエヤップの最高栄誉であり、名誉会員ということも含めております。

鳩山由紀夫殿は公益財団法人友愛の理事長として友愛及び姉妹団体であるエヤップとの間の良き関係に大きく貢献してくださいました。鳩山由紀夫理事長は 2015 年のオーストリア訪問の際に改めてエヤップとの正式な協力関係を "Preserving Bridges" という協定書で結び、さらに関係を深めてくださいました。その後、友愛及びエヤップの間の若者交流を継続促進させ、エヤップに対して特別な寛大さを示してくださいました。

鳩山由紀夫理事長は友愛をこれからの益々の発展へと導くことを我々は確信しております。

深甚なる感謝の意を表し

エヤップの代表として

ヴィルヘルム・ペルコヴィッチ　会長
モニカ・シュッスラー　経営責任者
エドワード・シュッスラー　名誉会長

2024年8月9日、ウィーンにて

親書と栄誉賞を手に、鳩山由紀夫理事長と、トーマスさん（写真左）　懇親会では、待望の日本料理に全員舌鼓（写真１）
谷藤悦史理事の乾杯から楽しい食事会の始まりです（写真２）
全員が日本酒好きとのことで、一升瓶を用意しました。これを抱えて大はしゃぎのニックさん（写真３）

金の盾のバッヂ。重厚な光に包まれたOEJABのロゴマークが記されている（写真上）
OEJABの重鎮三名の署名の入った親書（写真左）

この日ＯＥＪＡＢを代表して、トーマス・アンガースンさんより、ＯＥＪＡＢの最高栄誉賞にあたる金の盾の徽章が鳩山由紀夫理事長に贈られた。鳩山由紀夫理事長と、井上和子理事にＯＥＪＡＢの最高栄誉賞を届けることは、今回の訪日の目的の一つである。併せてモニカ・シュスラーＣＥＯ、ペルコビッチ会長、シュスラー名誉会長の署名入りの親書が届けられた。親書にはこれまでの友好関係への感謝、これからの関係継続が述べられている。

友愛の輪

三浦　愛佳

私は、最初の4日間の東京でのアテンドを担当しました。ゲリラ豪雨に遭遇するなどのトラブルもありましたが、ほとんどの参加者にとって初めての日本を楽しんでいただけるよう全力でサポートしました。

私が今回の経験で一番印象に残ったのは、派遣団員の真面目で思いやりのある性格です。彼らは必ず予定時間より少し前に集合してくれましたし、日本のルールやマナーに適応しようと常に学びの姿勢を取っていました。また、私がドイツ語を話せないことを知ると、英語での会話に切り替えてくれたりする等、細やかな配慮を見せてくれました。

また、派遣団との交流を通じて、私自身も多くの気づきを得ました。例えば、ファミリーレストランで食事をした際、日本は緑茶で有名なのに水が提供されていると驚いた派遣団の反応を見て、現代日本の食事について改めて考えさせられました。また、スカイツリー展望台から東京の街を見た際、「東京はこんなに多くの人が住んでいるのに、なぜこんなに静かなのか？みんなバケーションに行っているのか」という質問を受け、平日の昼間に多くの人がオフィスで働いているのは、ヨーロッパでは当たり前ではないのだと気が付きました。さらに、回転寿司でのエピソードも印象的でした。お刺身のお寿司よりも河童巻きが大人気であったり、そのお店独自のカルピスソーダのような飲み物が話題になったりと、予想外の点で盛り上がっており、私自身も気づいていない日本の魅力がまだまだあるのだと知らされた瞬間でもありました。

このプログラムは、「オーストリアからの派遣団が友愛の活動や日本と平和について学ぶ」だけではなく、お互いの国や自分達自身の文化について考える素晴らしい機会を提供してくれるものでした。また、昨年度私がオーストリアを訪れた際、現地の方々に親切にしていただいたことが思い出され、今回のプログラムでもそのお返しができたように感じます。

このような交流が今後も続き、日本からオーストリアに、オーストリアから日本に友愛の輪が送られることを願っています。

人と人との繋がりが互いの国の印象に

田島　桃子

「人を通じて、互いの国を知る」今回のアテンドでは、まさにこの言葉を痛感した2日間でした。多くのオーストリアの学生にとって、初めてのアジア・日本ということで、来日前には「日本といえばアニメ」という程度の印象だった学生もいました。そんな彼らが滞在を経て、日本の歴史・文化・人を知り、美しい国だと称して帰国する姿に、胸が熱くなりました。

それは、同じものを観て・食べて、語り合い、時間を共有する中で、互いに心を開き、真心で繋がり合うことができたからだと思っています。互いの話に関心を持って耳を傾け、笑顔で語り合う、そんな何気ないけれども、相手への尊重と寛容さがあるからこそ成り立つコミュニケーションが心地良く、とても楽しかったです。私自身も、彼らからウィーンの新たな側面を知ることができました。日本各地を訪れるだけでなく、ユニオンメンバーとの対話を通じて、日本という国を知ってもらえたということに、本事業の醍醐味・魅力があったと思います。我々自身も、普段は無意識であることの多い日本の習慣・文化について問われ、説明するなかで、自覚的になり、捉え直す経験になりました。

まさに本事業は、友愛精神を互いに実践し、地理的には遠い国オーストリアと日本の我々が相手を知ることで心理的距離を縮め、未来へ続く友好関係への種を蒔いたものだと思います。

この経験を経て、人と人との繋がりこそが、相手国への印象を形作り、国同士の協調・平和をもたらすのだと再認識しました。これからもそんな友愛の輪を日々の生活のなかで広げていきたいです。

派遣後も友愛ユニオンの仲間との繋がりが続き、今回のような新たな出会いもあり、輪が広がっていくことに心から感謝しております。社会人として日々働くなか、久しぶりの他国の学生との新たな出会い・交流に、終始心を躍らせておりました。ウィーンの仲間と今後も連絡を取り合い、いつの日か成長した姿で再会したいです。貴重な経験をありがとうございました。

広島で育んだ「信頼の輪」

手塚　七彩

争いを生み出す疑心暗鬼を消し去るために、今こそ市民社会が起こすべき行動は、他者を思いやる気持ちを持って交流し対話することで「信頼の輪」を育み、日常生活の中で実感できる「安心の輪」を、国境を越えて広めていくこと。

松井市長の平和宣言を聞いた時、私はこの「信頼の輪」こそが友愛だと感じました。

広島を訪問し、その凄惨な歴史に衝撃を受けたのは、OEJABの皆さんだけではありません。私もその1人です。1945年8月6日広島に原爆が落とされ、14万人が命を失った。小学校で習ったその14万という数字の1つ1つには、それぞれの人間の生活や夢があったことに気づかされました。また、生き延びた方も、家族を失った孤独と、放射能の恐怖と闘い続けなければならず、「死んでしまった方が楽だ」と思うこともあったかもしれません。それでもこの間違いを二度と犯してはいけないと後世に伝えるため、彼らが必死に紡いだ言葉の数々を目にしたとき、胸が張り裂けそうな気持ちになりました。私たち1人ひとりがその想いを受け止めると同時に、世界では、戦争は過去の出来事ではなく、現在進行形の出来事であることについて深く考える必要があると感じました。

普通の生活をしていたら出会うはずのなかったオーストリアの学生さん達と交流し、楽しい話をたくさんし、国境を越えた「信頼の輪」を育むことが出来ました。平和への一歩は、過去や現在の悲惨な経験と常に隣り合わせである必要はなく、明るい未来に向けてお互いの考えや価値観を共有することからも踏み出せると体感した4日間でした。

難しい話が出来なくてもよい、特別なスキルを持っていなくてもよい。国籍・人種・性別に関わらず、他者を尊重し、誠実な気持ちで接することが出来る人間、誰かが苦しんでいる時、その気持ちに寄り添い、そっと手を差し伸べる勇気を持つ人間でありたいと改めて思いました。限られた日程での参加となりましたが、貴重な機会をありがとうございました。

友愛とエヤップを通した人と人との繋がり

小倉　佑太

時が過ぎるのは早いもので、昨年3月のオーストリア派遣から1年半が経ちました。この1年半の間にたくさんの人と出会い、友愛を通して多くの経験を積み、私にとっての「友愛」をさらに探求することができたと感じています。

今回のOEJAB受け入れプロジェクトでは、これまで学んだ友愛精神を体現するためにもエヤップ使節団の方々を精一杯おもてなししようという心意気でアテンド致しました。

使節団の皆様と初めてお会いしたのは、広島に向かう日でした。道中は折り紙で鶴の折り方を教えました。折り紙で鶴を折るという日本文化に興味を示される方が多く、積極的に文化を学ぼうとする姿勢を感じました。その中でお互いの国の伝統や慣習についても意見交換ができ、親交を深めることができたと感じました。

何より団員全員が日本に強い関心を持ち、思慮深く過去の歴史を理解し、心から理解を示している様子を広島と京都のアテンドを通して感じることができました。特に広島平和記念資料館では過去の悲惨な出来事に心を痛め、涙を流している方もいました。国外から来た方が、自分の国の過去の惨事に対して涙を流しているその様子はまさに友愛の精神を感じさせるものでした。また同時に、これまで自身がいかに日本の文化や歴史に触れる機会が少なかったかということも感じました。海外に目を向け交流をしようとする際に、日本人たる教養や経験が必要だと改めて痛感しました。今回のアテンドは自分自身が歴史を振り返り、改めて日本を学ぶために重要な経験であったと思います。

もう一つ私が印象的だったのは、彼らが私に伝えてくれた未来の話についてです。今回の使節団の方々は、次回の友愛からの派遣員のアテンドをしてくれます。「君たちをアテンドすることはできないけれど、私たちはすれ違っているのではなくて次の世代の人々のアテンドを通して1本の線をつないでいる。」という彼らの言葉は改めて人と人の繋がりの強さを感じさせ、今後の友愛とエヤップのより密接な関係を思い起こさせました。

これからも友愛とエヤップを通して、両国の親交が深まり続けていくことを願っております。

人を通して国を知る・OEJAB学生との交流

藤田　脩椰

OEJABからの学生を受け入れる事業に参加した。成田空港での出迎えの後、東京見学、広島、京都への訪問に同行した。2週間という限られた日程の中で多くを訪ね、体験した密度の高い時間だったと感じている。彼らと初めて相対してから別れるまでの間に、友愛についての考えを深めるきっかけとなる出来事がいくつかあった。この中から2つ紹介する。

1つ目は、浅草寺／浅草神社に案内した際に、参拝の作法を紹介した際のことだ。紹介の後に、動作一つ一つの意味について等様々な質問を受けたり、実際の参拝にあたっての先導を求められたりしたことが印象的だった。信仰している宗教が異なるであろうとの考えから参拝は任意である旨伝えていたが、日本文化を理解する一環として体験してみたいと言われ、異国の物珍しい建物や習慣を面白がるにとどまらず、文化をより深く理解しようとする姿勢を強く感じ、胸が熱くなった。2つ目は、友愛事務局で開かれた、羽中田事務局長のお点前によるお茶席体験のときのことだ。終始和気藹々とした雰囲気でありながら、真剣そのものの表情でお茶を頂こうとする彼らの姿勢が印象的だった。後に聞いたところ、慣れない正座やしきたりに戸惑いはしたが、それも含めて敬意を払うべき対象だと思ったから、とのことだった。

上記が実現されたのは、個対個の関係を築きながら交流を行なったからこそと考える。表面的な理解にとどまらず、人を通じて人を理解する中でより深い交流ができたものと考えている。また、個対個の誠実な付き合いを相手が誰であっても、集団に対しても敷衍することが友愛精神の発露の方法のひとつだと考えた。

最後に、このような貴重な機会をくださった理事・事務局の皆様、貴重な経験を共にした友愛ユニオンメンバーにこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

（アテンドリーダー）

◆猛暑日が続く8月下旬、OEJABから12名の派遣員が来日しました。友愛側のアテンドも加えると総勢20名の、ちょっとした団体です。皆さん元気で笑顔満面、同行する私たちもつられて笑顔になります。困ったのは食事。幸い広島ではビル全体がお好み焼き店というところもあり、広島風お好み焼きを堪能しました。しかし、全員が入店できるお店は少なく、勢いファミリーレストランを活用しました。重なると流石に日本食がいいとの希望がでました。全員お箸も器用に使いこなす、日本食ファンで、嬉しいかたわら場所が…。次回はもっと考えなくてはと思った次第。（も）